（1989），『生物学名命名法辞典』（1994），『生物学名概論』（2002）などを上梓されており，生物学名に関しては国内に肩を並べる人のない権威者である．80才代に入ってこのような大著が出版できるというのも，自家薬籠中の素材を辞典のかたちに展開されたからだろうか．ただし，いわゆる辞典の堅苦しさを乗り越えるために，119に及ぶ「囲み記事」が案配されている．著者ならではの豊富な話題が軽妙な文章で紹介されており，これを読むだけでも結構楽しい著書である．

著者の狭義の専門分野は昆虫学であるが，書名にあるように，植物，菌類の話題も広く取り上げられている．書の構成としては，ラテン語についての一般的な解説に続いて，本体は多様な用語の説明に当てられている．ただ，その分類，配列も，「一般的な形容詞」の章に続いて，「色に関する用語」，「形と寸法に関する用語」，「表面構造に関する用語」など，特徴的な名前の章が並ぶ．もちろん，「植物の構造に関する用語」，「環境に関する用語」などという章も準備されている．何といっても，豊富な実例が全編を通じて盛り込まれているのがこの書の他に例を見ない特徴だろう．

命名は生き物の研究そのものではない．しかし，大量の情報を扱う生物多様性の研究では，情報処理に齟齬のないことはコミュニケーションの基本と期待される．本書はリンネ生誕300年記念出版とされるが，二命名法の採用によって生物多様性の情報処理の基盤を世紀を超えて確立したこの巨人を偲ぶにふさわしい出版物といえる．学名を扱う生物学者のひとりとして，この出版物が得られることを，著者にも出版社にも感謝し，関連の研究者に広く関心をもっていただきたいと念じるところである．（岩槻邦男）

□清末忠人：**自然と教育を語る－思い出をたぐって**　641+20 pp. A5. 2007. ￥3,000. 自版. ISBN: no number.

先に清末氏の「わたしの歩み－清末忠人研究集録」の紹介をしたとき，自選集では物足りない旨を表明しておいた．同感の人が多いようで，あとがきによると「（前回同様）友人にすすめられて…」130篇の作品が集録され，喜寿の記念出版となった．永年教育界にあった著者だけに話題は広範で，植物・動物はもとより，自然保護，歴史，民俗，教育・行政にまで及ぶ．1952年の鳥取大火で，それまでの資料すべてを焼失したとのことで，集録されていないが，いずれそれらを発掘する動きもおこるのではあるまいか．入手については〒680-0037 鳥取市元町104の著者に連絡されたい．（金井弘夫）